

# 鈴木ひとみ市政報告

## ごあいさつ

明けましておめでとうございます。令和元年の台風被害、令和2年の新型コロナウイルス感染症と皆様も大変ご苦労をされたと思います。

今年は、これらの災禍を克服し、明るい笑顔が戻る年になることを心から願っています。



鈴木ひとみ

令和2年12月 定例市議会より

## 豊かな農業生産を維持するために

食のまちづくりの拠点を整備する方針が公表され、今議会でも補正予算案の中に債務負担行為として盛り込まれました。稲の市有地活用方法として、長年検討されてきました。立地条件などの不安はありますが、市としては「食のまち」としてのブランド力を強め、地産地消を進めるために整備したいという考えです。

食のまち、地産地消には豊かな農水産物の提供が必須ですが、農漁業の担い手の高齢化、後継者不足は深刻です。2020年の農林業センサスによると、館山市の農家の平均年齢は68.8歳、65歳以上が73.9%です。農漁業を守り、育てていくための対策を急がなくてはなりません。



神戸地区のレタス畑

## 耕作放棄地の増加を防ぐ取り組みを地域の話し合いで

国が推進している「人・農地プラン」や「中間管理事業」は、後継者のいない農地を、地域の他の農家が耕作を行うようにする仕組みです。長年丹精込めて耕されてきた農地を荒れ地にしないために、ぜひ取り組んで欲しいと考えます。

「人・農地プラン」の作成は、耕作放棄を防ぎ、より強い農家を育てるに繋がりますが、地域の農家の話し合いが必要になります。現在は6地区で作成が完了しています。「中間管理事業」は農地を貸したい農家と借りたい農家をつなぐ仕組みで、令和元年度は30件、7.1ヘクタールの農地で利用されています。これらの制度の活用を進めて農地の荒廃を防ぎ、経営基盤のしっかりした農家を増やすためには、地区ごとに将来を見据えた話し合いが必要となります。

## 新規就農希望者の受け入れ、育てる仕組みを

農地を力のある農家が集約して生産規模を拡大することと同時に、新規就農者を増やすことも必要です。コロナ禍の今、田舎で農業を始めたいという人も増えています。その人たちに館山を選んでもらうこと、自立できるよう育てていくことが大切だと思います。新規就農者募集のPRや、移住相談との連携、国の「青年等就農資金」の紹介、研修制度の充実が求められます。また、地域おこし協力隊の制度の活用も一つの方法です。

農家の高齢化、耕作放棄地の増加の問題はこれまで幾度となく議論されてきましたが、中々解決を見ません。農家の規模拡大、ブランド商品の開発、作業の効率化、スマート農法など新しい技術の導入により農家の所得を安定させること。新規就農の際の資金面、技術面でのハードルを下げることがカギになると考えます。

食のまちづくり拠点は、2023年度開業で20年契約の予定です。2043年の館山市で豊かな食材を提供するためには、今何をしなければならないか、生産者だけでなく多くの市民が一緒に考えていくことが大切です。